

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	伝統ある大橋病院循環器内科:地域医療から日本,そして世界へ
別タイトル	Department of Internal Medicine, Division of Cardiovascular Medicine (Ohashi)
作成者(著者)	諸井, 雅男
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.09.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(3). p.141 142.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2023 009
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD41077247

教室(診療科)紹介(141)

伝統ある大橋病院循環器内科： 地域医療から日本，そして世界へ

内科学講座循環器内科学分野（大橋）

教授：諸井雅男
 准教授：原 英彦
 講師：飯島雷輔
 中村啓二郎
 池田長生
 医局長：林 典行

大橋病院は1964年7月に開院し、1974年に第三内科という講座が誕生しました。現在の大橋病院循環器内科は、第三内科から分かれた講座です。初代第三内科教授は関清先生です。関先生は、世界で初めてリンパ管の蠕動運動を報告しております。1984年に内科学第三講座主任教授として町井潔先生が着任されました。町井先生は、断層心エコー法の開拓者で、現在の日本心臓病学会の創始者のお一人です。1992年に内科学第三講座主任教授に山口徹先生が着任

されました。山口先生は日本の冠動脈インターベンションの創始者のお一人です。山口先生は2004年に開催された第69回日本循環器学会学術集会総会の会長を務められています。2003年に内科系講座再編成が行われ、内科学第3講座から循環器診療グループは内科学講座循環器内科学分野（大橋）となりました。2006年に日本の不整脈診療の第一人者でおられる杉薫准教授が教授に就任されました。杉先生の指導を受けられたのが現在の大森病院循環器内科教授の池田隆徳先生です。2009年には大橋病院心臓血管治療センターの教授として中村正人先生が着任されました。中村先生は2016年から2023年3月まで内科学講座循環器内科学分野（大橋）の教授を務められ、心血管インターベンション学会の理事長を務められています。2015年から教授として着任している諸井雅男は1993年に米国のマサチューセッツ総合病院の心臓ユニットに留学し、そのときに心臓核医学を学び、帰国後は心臓CT、心臓MRIといった心臓画像診断を行っています。

大橋病院の循環器内科の歴史を振り返ってみると、循環器診療のほぼ全分野、すなわちリンパから心エコー、心血管インターベンション、不整脈、心臓画像診断においてトップレベルの診療と情報発信をしてきた伝統ある講座であることがわかります。現在の取り組んでいるトピックについてご紹介します。

原英彦准教授は、構造的疾患と呼ばれる心臓の冠動脈以外の部位（心筋、弁膜、先天性心臓病）に対してカテーテル治療を実施しています。経皮的心房中隔欠損閉鎖術は国内でも有数の実績があり、動脈管開存症やその他の先天性心臓病治療も小児から高齢者まで経験豊富です。高齢者大動脈弁狭窄に対する経皮的動脈弁植え込み（TAVI）や



経皮的僧帽弁形成術 (Mitra Clip), 各種狭窄弁に対するバルーン拡張術, 肥大型心筋症へのアルコール中隔焼灼術, 人工弁置換術後の弁周囲逆流への経皮的閉鎖術も行っています。脳梗塞予防治療も行っており, 経皮的卵円孔開存閉鎖術や, 心房細動患者に対する経皮的左心耳閉鎖術を導入しています。

飯島雷輔講師と林典行助教は冠動脈疾患や下肢の閉塞性動脈疾患に対するカテーテル治療を行っております。高齢者が多く, 循環器疾患以外にも併存疾患やフレイルが存在するため, カテーテル治療の適応や施行には細心の注意と工夫を行っています。虚血性心疾患に対して, 冠動脈ステントと薬物コーティングバルーンを併用したBlend PCIを推奨しており, 出血性合併症の原因になる可能性のある抗血小板剤の使用期間を短縮するためにカテーテル手技の工夫を行っております。

中村啓二郎講師を中心とした不整脈診療グループは, カテーテルアブレーション治療をはじめとしてペースメーカー・埋め込み型除細動器 (ICD)・心臓再同期療法などのデバイス治療を行っています。最大の特徴として, リスク因子である心房心筋症についても治療介入を行い, 心房リモデリングを抑制することで治療困難である難治性に対しても良好な成績を得ています。研究面においては, 基本となる心臓電気生理学の他, 心房心筋症や心臓マッピングに関する研究, また, 人工知能 (AI) を用いた心電図や画像データの分析に関する研究, シミュレーションによるアブレーションやICDの最適化に関する研究を行っています。

肺高血圧症診療は, 池田長生講師が行っており, 特に慢

性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) に対してのバルーン肺動脈形成術 (BPA) はCTEPH患者さんの血行動態・症状・生命予後を劇的に改善することが証明されており, 積極的に行っています。大橋病院はBPA指導施設に認定されるなど, 日本の中心施設の1つとしてエビデンスを発信し続けています。

心エコー検査は, 生理機能検査部門の中で独立した検査室として循環器疾患の診断に重要な役割を果たしています。橋本剛助教と葉山裕真助教を中心として行っています。2022年はコロナ禍の中にあっても経胸壁心エコー図検査約7000件, 経胸壁パルテスト19件, 薬物負荷心エコー検査12件, 経食道心エコー検査571件を実施しています。近年は右室機能, 三尖弁逆流, 心アミロイドーシス診断のためのストレイン解析を行っています。

心臓核医学検査, 冠動脈CT, 心臓MRI検査は, 国正妙子医師, 脇谷桃子医師, 粟屋徹医師が担当しております。カテーテル治療のための必要な検査ですが, 心不全の基礎疾患としての心筋症や心筋炎の診断や治療効果判定に活用しています。低侵襲検査として高齢患者が増加している昨今では重要な検査となっており, その意義についての多くの情報を発信しています。特にCOVID-19mRNAワクチン接種後の心筋炎や臓器障害の報告は世界的に注目されています。

以上, 大橋病院循環器内科の歴史と現在の活動をご紹介します。大橋病院循環器内科のさらなる飛躍を医局員一同目指しています。

(諸井雅男)

DOI: 10.14994/tohoigaku.2023-009